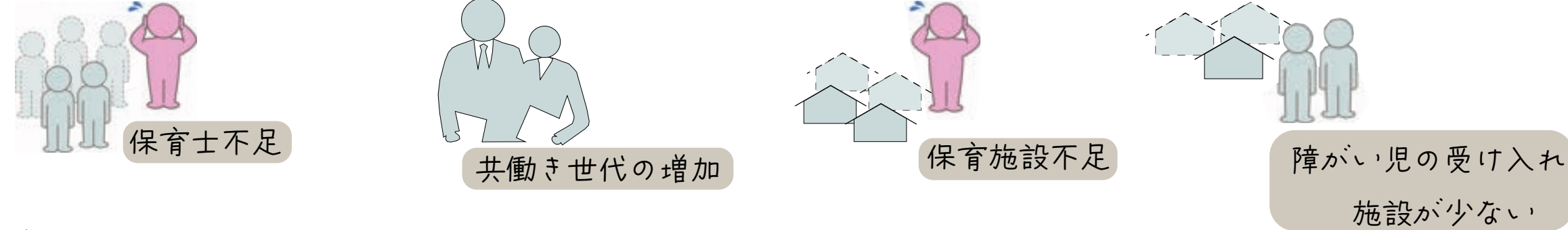


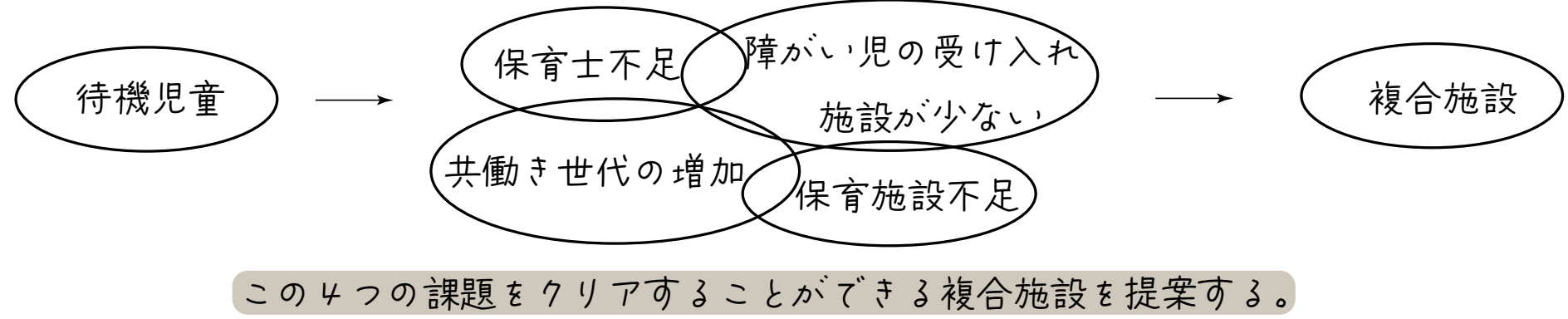
01. 課題と提案 -Issues And Proposals

01-1. 課題

- (1) 保育士不足…長時間拘束される。資格保有しているが、活用していない人が増加。
- (2) 共働き世代の増加…共働き世代の増加により、一日中子どもを預ける人が増えた。また、勤務時間は世帯によって異なり、残業や休日出勤などに保育施設開所時間が対応していないことが多々ある。
- (3) 保育施設不足…県全体の園児の数より県全体の受け入れ可能人数の方が多くなっているが、一部の保育園の定員がオーバー、定員割れしている。その結果、定員割れしている保育園が閉鎖や合併され、保育園自体が少なくなっているのが現状である。また、保育施設を建設したくても広い土地を確保できないことが問題となっている。
- (4) 障がい児の受け入れ施設が少ない…保育園側の受け入れ態勢が整っておりず、受け入れが難しい。



01-2. 提案



02. 敷地選定 -Site Selection

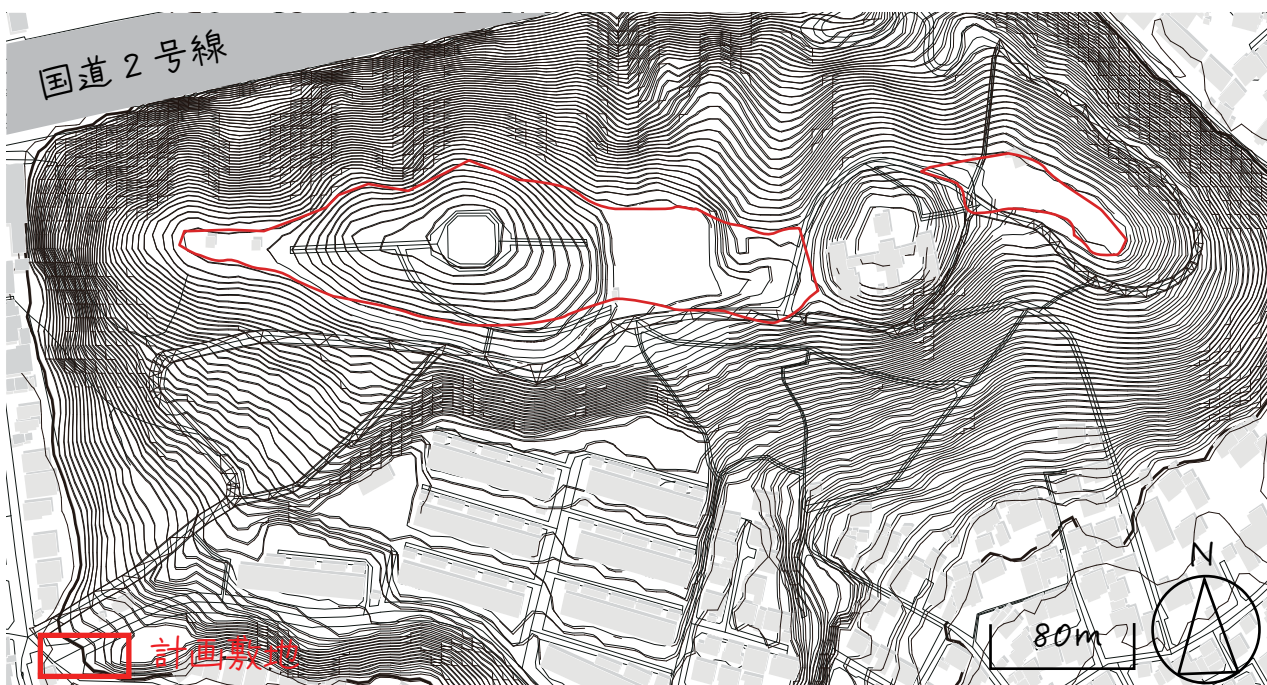
本研究では、「待機児童」ではなく、待機児童を「希望の保育所に入園できない児童」と定義する。この定義を基に中国地方の待機児童数を調べたところ岡山県が多い。そこで、調査対象を岡山県に限定し、市ごとの待機児童数を調べた。岡山市に比べ施設数が少ない倉敷市が待機児童が多い。

市町村名	施設数 (か所)	定員数 (人)	入所児童数 (人)	待機児童数 (人)	待機児童数 (人) ※2021年
岡山市	159	18,065	5,463	8	31
倉敷市	103	11,698	10,850	28	39
備前市	10	987	643	2	8
赤磐市	15	1,375	1,299	3	2
早島町	3	400	433	19	23
勝央町	5	480	418	4	1

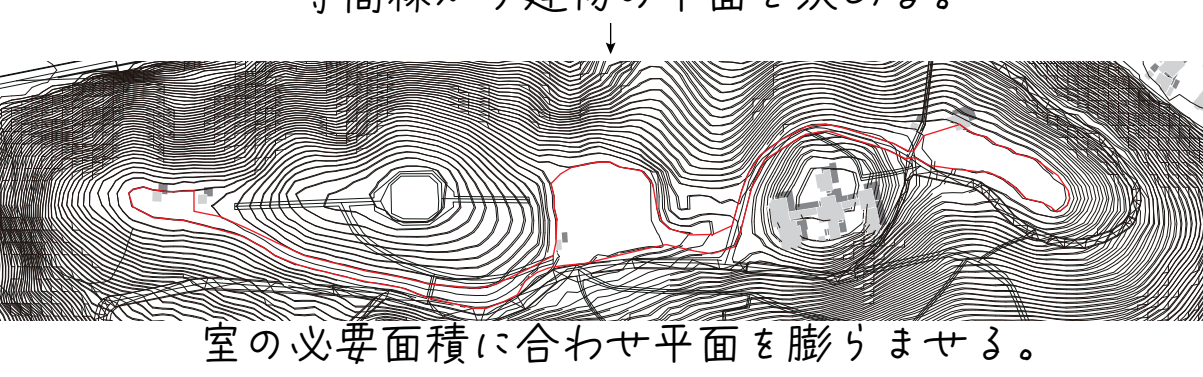
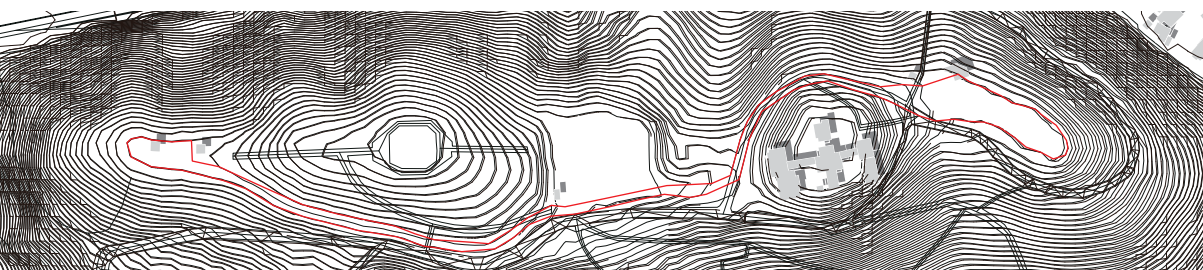
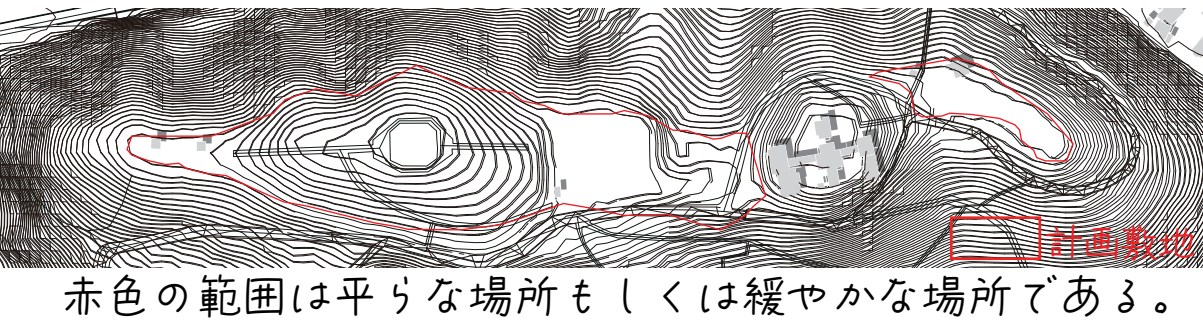
表-1 2022年岡山県市別待機児童数調査

待機児童数調査と保育園での聞き取り調査から岡山県倉敷市笹沖にある足高公園を計画敷地とする。足高公園は、国道2号線沿いにある小高い丘である。標高65mの山頂には足高神社が祀られており、国道2号線がある北側は交通量が多く、南側は住宅街が広がっている。また、北側は傾斜が激しく、南側は緩やかである。

丘の内、公園やグラウンドとして使用されている場所と公園間を繋ぐ道、公園とグラウンドを繋ぐ道を計画する。

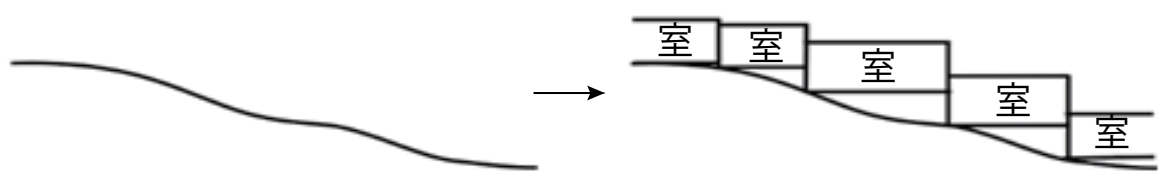


04. 提案 -Diagram



外部計画

建物の形や動線は全て等高線を利用した平面計画で、小高い丘に馴染むような計画とした。等高線に沿って、配置計画を行った。図-5のように斜面に沿って床を配置した。それぞれの室は、標高に合わせた配置のため、高さが異なる。

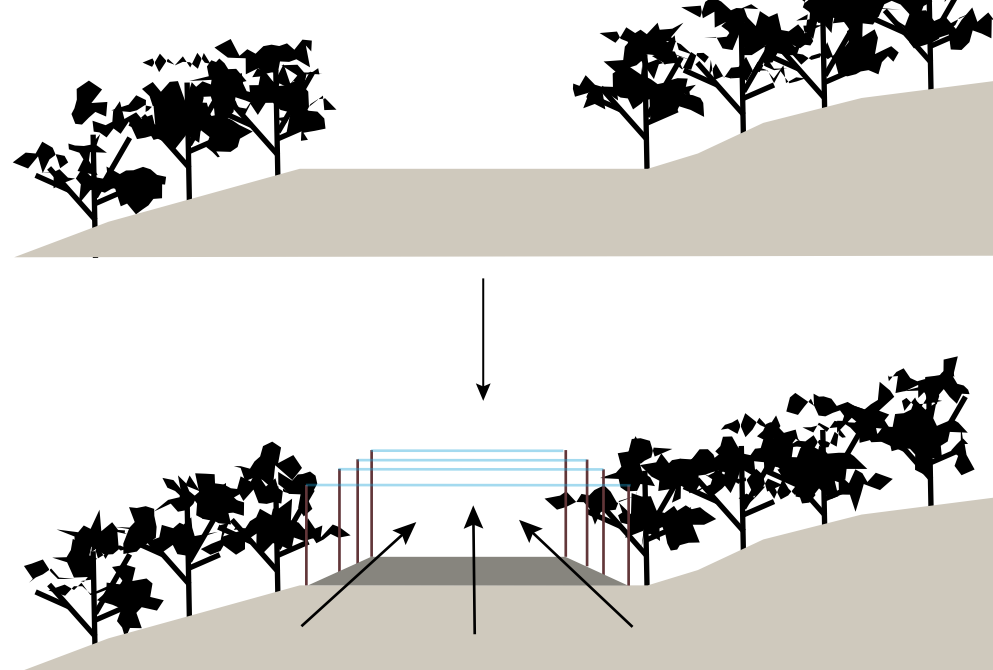


また、本計画敷地は木々に囲まれている。計画敷地に公園を2つ配置している。建物と公園の周りに木々が生い茂っているが、木々の内側にフェンスを配置することで子どもたちの安全を確保する。



立面計画

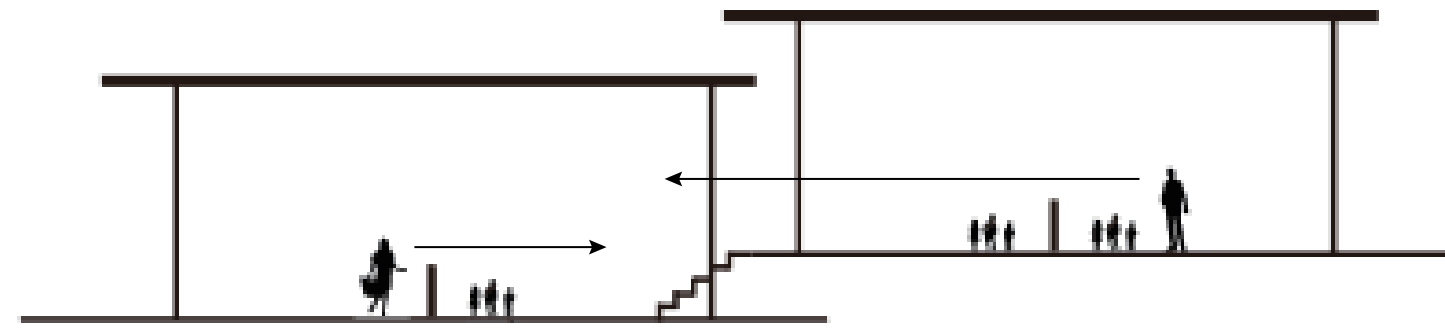
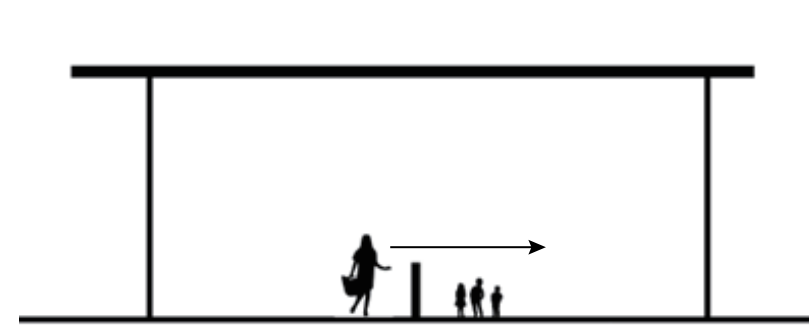
木々に囲まれたこの敷地に溶け込むような施設を計画する。二本の木を柱に見立て、連続させることで自然に溶け込む建築とした。



内部計画

内部計画をするにあたり、「遮らない」をコンセプトとし、以下の特徴を持つ内部空間を計画することを目指した。

- 1) この施設の壁・建具はトイレを除き、ガラス張りで計画する。これにより、室内の人々が、他の居室で行われている活動の様子を見ることができる。
- 2) 室内にある造作家具は全て園児の身長よりも高く、大人の身長よりも低いものとする。この造作家具はロッカーや収納の役割をしている。園児の身長よりも高く、大人の身長よりも低いものとする。園児の空間を分ける役割と園児が自分の場所を認識することができるという役割を果たす。また、大人の身長よりも低くすることで、保育士が空間すべてを見渡すことができる。



ERIGENS PARTEM

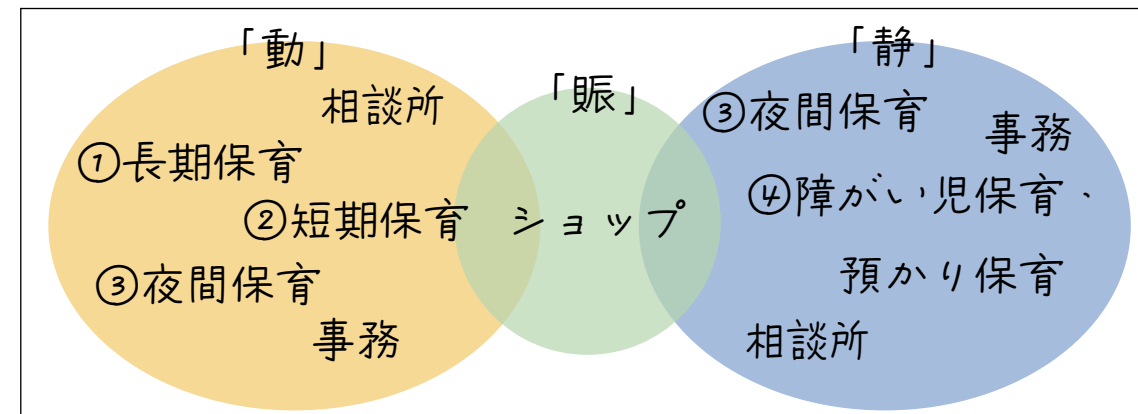
- 岡山県倉敷市における地域密着型保育施設 -

03. 計画方針 -Planning Policy

待機児童問題に着目した際、保育資格保有者にも目を向けた。保育資格を保有しているが活用していない人が年々増えている。保育資格があると保育園内の事務、障がい者や重症心身障がい者の施設、企業・病院内の託児所、学童保育所、ベビーシッター等の仕事で重宝される。

本計画では、①長期保育施設、②短期保育施設、③夜間保育施設、④障がい児のための保育施設・預かり保育、それぞれの施設の事務に焦点を当てた。保育施設は保護者や地域のニーズに合わせて対応できるようにエリア分けし、敷地に分散して配置計画する。

- 1) 4つの保育所を2エリアに分けて配置する。
- 2) 本計画の障がい者は「心」に障がいをもつ子どもたちを対象とする。心に障がいを持つ子どもの中にはにぎやかな場所が苦手な子どもがいる。そのため、計画敷地を「動」と「静」のエリアに分け、木々が生い茂り、外の騒音が聞こえない東側のエリアを「静」のエリア、西側のエリアを



「動」のエリアとなるよう配置する。

3) 2つの保育エリアの間に位置する「賑」エリアは外部の人が保育を身近に感じることができるよう保育に関連したショップを計画する。「賑」エリアには誰でも入ることができるように計画し、公園は時間によって地域の人にも開放する。

4) 保護者が一日に寄りなければならない施設をこの複合施設内に計画することによって、本計画の複合施設のみで、ある程度の保育を完結できるようにする。

5) 「動」エリアと「静」エリアを「賑」エリアで繋ぐ。建物の形や動線は等高線からくる形態で、土地に合う自然な形になるよう計画する。

可動式建具

保育形態ごとに部屋を分け、園児を分ける”部屋”を建築上設計していない。保育園を設計するに当たって、収容人数や園児一人当たりの必要面積など法律上定めなくてはならない。

しかし、本計画の保育施設は「その時の地域の需要に合わせて対応可能な施設」「遮らない」をコンセプトとしている。

そこで園児の空間を作り、地域の需要に合わせて移動可能な”可動式建具”とすることで、以下の2つの役割を果たす。

- ①園児の空間を分ける役割（年齢別、保育形態別 etc...）
- ②園児が自分の場所を認識する役割

また、この可動式建具を棚にすることで収納も確保した。

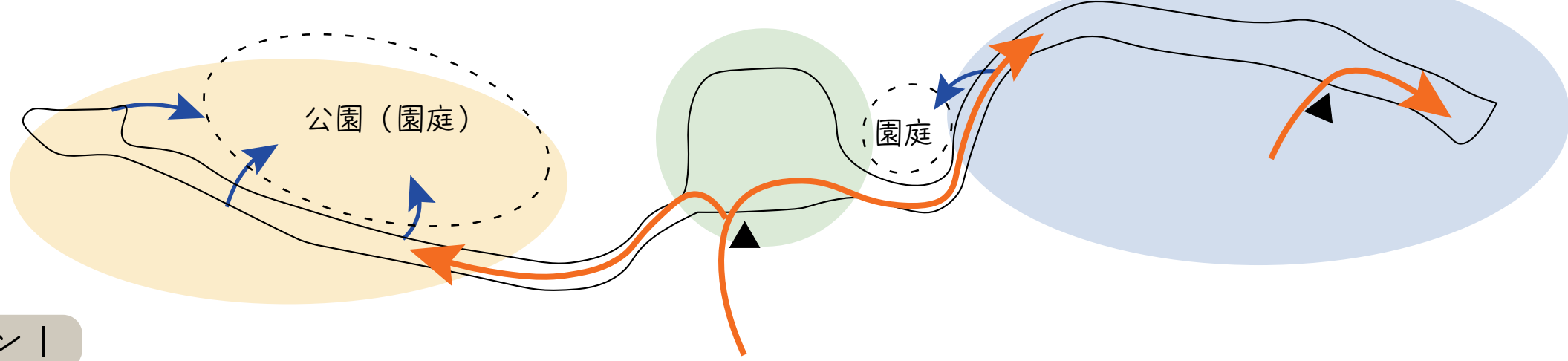


動線

左から「動」エリア、「賑」エリア、「静」エリアとなっており、エントランスは「賑」エリアの南側に配置した。「動」エリア、「静」エリアは「賑」エリアを通る動線とした。「賑」エリアは誰でも入ることができる。「動」エリア、「静」エリアと「賑」エリアの間にガラス製の扉を設置し、パスを使い入る仕組みとする。

また、「心」に障がいを持つ子どもの中には、賑やかな場所が苦手な子もいる。「静」エリアには、小児クリニックもあるため、「静」エリアに障がい児保育施設と小児クリニック専用のエントランスを配置した。（→）

また、それぞれの保育室から公園にアクセスできるように公園専用の扉を設置した。（→）

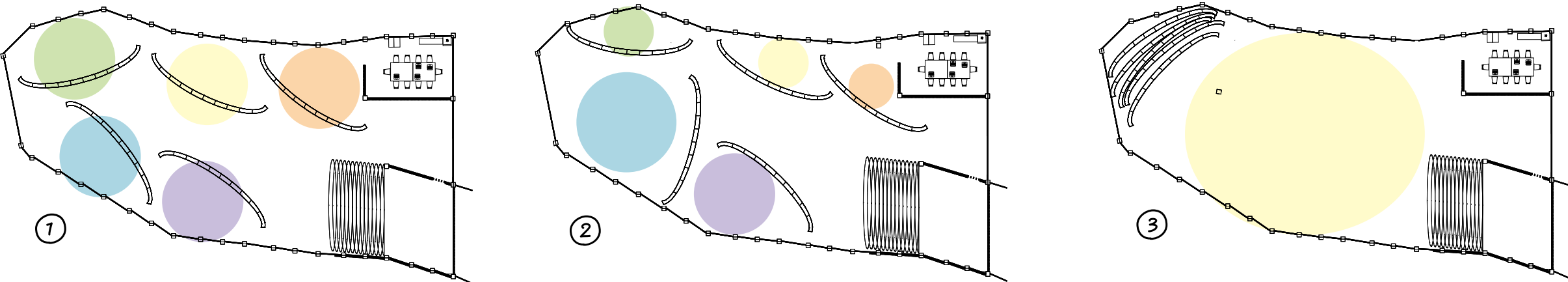


パターンⅠ

下図は「動」エリアの長期保育室である。パターン①は、1-5歳児の各学年の人数が均等なときなど、同じ面積で可動式建具を配置する。

パターン②は1-5歳児の各学年の人数に偏りがあるとき、多い人数の学年の面積が広がるように可動式建具を配置する。

パターン③は、可動式建具をすべて教室の端に集め、空間を広く使う。

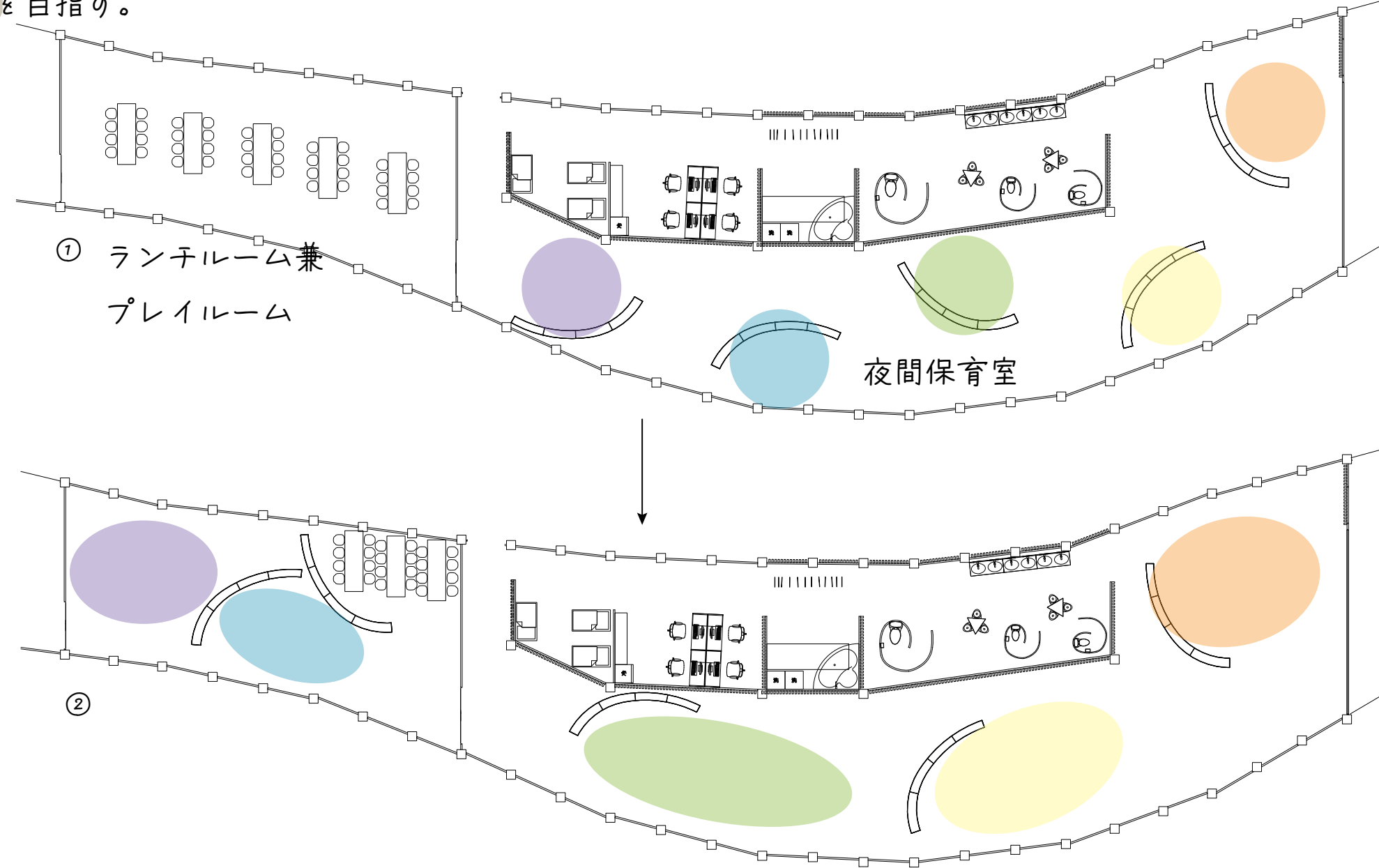


パターンⅡ

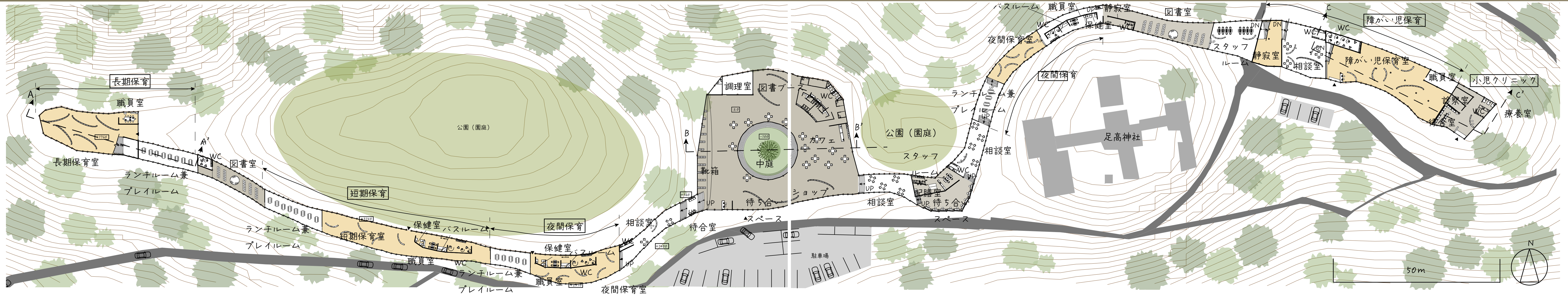
右の平面図は「動」エリアの夜間保育室とランチルーム兼プレイルームである。パターン①は、夜間保育に通う園児の各学年の人数が同じで一学年当たり10人を想定している。

各学年の人数が10人より多く、学年ごとにバラバラの場合、パターン②のように他の部屋と繋げて拡大して使う。建具は可動式で、机・椅子も子ども用の軽い素材のため、ごはんのときは可動式建具を保育士が動かし、園児が机・椅子を動かす。

Aの保育形態の需要が高まり、Bの保育形態の需要が下がったとする。この場合パターンⅠ・Ⅱを考える。また、Bの保育形態があるエリアをAの保育形態のエリアとして利用する。地域の需要と保育士の就業時間を最大限考慮し、地域に根ざした施設を目指す。



05. 平面図 -Floor Plan



「動」エリア

「動」エリアは長期保育、短期保育、夜間保育、相談所を配置する。同じ空間に施設を計画してしまうと、各保育施設に通う園児が混ざってしまうので、各保育施設の間にガラス製のドアを設置した。

「賑」エリア

「賑」エリアは保育を地域の人たちも入ることができるエリアとする。「賑」エリアには、調理室を配置している。この施設の給食、おやつはすべてこの調で作り、「賑」エリアでは、調理室の様子を知己の人や保護者が見れるようになっている。

静寂室

「心」に障がいを持つ子ども達は、何も無い静かな空間にいてことで落ち着くことができる。この空間を「静」エリアに2カ所配置し、「静寂室」とした。「静寂室」は木の格子と擦りガラスで囲い、閉鎖的になりすぎない空間を目指した。

「静」エリア

木々に囲まれた東側は国道2号線や住宅街の騒音が全く聞こえないため、障がい児保育を配置した。本施設には、小児クリニックを計画する。施設の中にクリニックを計画することで、保育施設から病院まで行く時間を減らすことができる。また、クリニックが併設してあることで、保護者が安心して子どもを預けることができる。

